

第8日

平成22年6月17日（木）

午前10時零分開議

○議長（柴田裕隆君） おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は22名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、16日に引き続き一般質問を行います。

それでは、8番桑野博明議員の質問を許可します。8番桑野博明議員。

（8番桑野博明君登壇）

○8番（桑野博明君） 皆さん、おはようございます。8番議員の桑野博明でございます。本日は早朝より傍聴いただきまして、ありがとうございます。それから、6月議会の一般質問、最後の順番となりました。4月の選挙において、森田朝倉市長が誕生したことを心からお祝い申し上げたいというふうに思います。おめでとうございます。

最後の一般質問となりますと、マニフェスト等に関しては多数の議員の方から質問が出たので、私が出る番はないのかなというふうに思っておりますが、つい最近の国の情勢、それからマスコミ等の情報で、最近ちょっと頭にきていることがあるので、ここでちょっと言わせていただこうというふうに思いました。

まず1つは、政権与党でありますところが、財源の保障もされない選挙だけの公約で、あげくの果てには過去最大の44兆円という借金をしながら財源確保した、ばらまき政策である子ども手当、満額支給となると、防衛費よりも多くなるというふうに言われております。

また、普天間問題では、その場しのぎの言葉で、国民の皆さん、それから県民の皆さんに大変不愉快、不安を与えた代表の言葉というのは、あんなことでいいのかなというふうに思われる。これが本当の友愛政治なのかというふうに、最近、思うようになりました。

それから、選挙目当てのために、代表だけを国民に問わずして自分たちで表紙を変えてしまうような与党であっていいのだろうか、そういうふうに痛感しているところであります。

地方分権の中で、国のそういった政策、それから不安の中で、いかに朝倉市民が満足できるような行政サービスから、お金がない時代は納得いただけるような行政サービスにしなければいけないというふうに思っております。

ぜひ、きょうの一般質問で、通告に書いておりますけれども、あえて私は森田市政についてというふうに書いております。ぜひ、森田市政の色を出していただきたいというふうに思って、質問をさせていただきます。ぜひ、市長のほうには思い切って発言をしていただければというふうに期待をしておりますので、質問、よろしく願いいたします。

（8番桑野博明君降壇）

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） では、通告どおり質問をしますが、先ほど言いましたが、質問ではなくて答弁をよろしくをお願いします。

まず、私の考えの中では、いろんな市政、それから政策、いろんなことをやる中で、行政の仕事のやり方の中で、私が大変最近といいますか、議員になってから不安だなとか、私と考えが違うのかなというふうに思っているところが実はあります。よく、実施計画書なりで、PDCAという言葉がよく出てまいります。私は、計画ありきのような、要はプランを立ててどうこうというよりも、私の考え方は、前回もお話したかと思いますが、STPDST、要はSee、Think、Plan、Doという形を私は考えております。

See、要は市場、それから市民の考え、朝倉市はどういう現状にあるのか、それをまず見ることが、聞くことが、僕はまず一番の先決の問題だろうというふうに思っております。それから、その中の朝倉市の特徴、それから国の政策、そういったものを踏まえて、ではどういう方向づけがいいのかな、朝倉市はどういう方向づけがいいのかなというThink、考えること、そしてプランを立てることだろうというふうに思っております。

まず1番目に、朝倉市の現状と課題と、市長、どういふふうに朝倉市を思っているのか、考えていらっしゃるのか、まず伺いをしたいというふうに思います。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 非常に漠然とした質問でありますので、どういった方向からそのことに対する答弁をすればいいのかなというふうに、今、考えているわけですが、まず現状を見るということが今言われました。今の現状、朝倉市というのはどういう市であるかと、あるいはどういう欠点といいますか、あって、どういう利点があるのかということから見てまいりますと、まず朝倉市の持っている特性、利点と申しますと、やはり何を申しまして都市部にはない豊かな自然であろうと思われし、またそこに営々として築かれてきた歴史であり、豊富な文化といったものであると思われし、またこの地域は自然も含めた中で、いわゆる多くのすばらしい農産物の産地であると。

また、地理的に見ますと、ここに住んでいる人はどういふ考えでいらっしゃるかわかりませんが、少なくとも福岡市、いわゆる九州で一番人口の多い福岡市に地理的に見ますと約1時間、これは朝倉市も広いですから、場所によってはそれ以上かかる場所もありますけれども、もっと短時間でいける場所もありますけれども、大体1時間で行けるということは、ある意味では地理的には非常に朝倉市にとっては非常に利点だろうと。

と申しますのも、私は20代のころ、9年間ほど東京に住んでおりました。東京と申しますと、その通勤圏、東京に勤める人たちの通勤の時間、距離を見ますと、1時間というのは非常に近いのですね。どうかすると、千葉あたりとか、神奈川県は2時間近くかかって通勤をされていると。それを考えるなら、1時間というのは時間、距離としては非常に十

分通勤圏であるし、そしておまけに1時間距離の中に、先ほど申し上げましたような自然が豊かな地域であるということは、いわゆる人が住もうと思えば、一番条件的にもいい条件下にあるのだろうというふうに思います。

また、先ほど時間、距離と申しましたけども、この地域の中で朝倉市の中に3つもインターチェンジを有していると、これが1つの自治体の中に3つもインターチェンジを持っている市町村というのはそうそうありません。そういったこと。

それから、私は、今からそういったものを利用して企業誘致等も図らなければならないと思っておりますが、今回、福岡県が麻生知事が、北部九州自動車100万台構想は100万台を突破しましたので、150万台構想というのをつくられました。それで、どの地域も自動車関連の企業を誘致しようということで、必死になって自動車関連の企業を誘致をいたしました。市町村によっては、余りにも自動車関連の事業、企業に依存しておったということで、今回、こういうことで急に不況になって、自動車産業は非常に厳しい状況になりました。税収も、どことは言いませんけども、ある町においては税収が何十億円と、それだけで減少するというような事態にもなりました。

しかし、私どものこの朝倉という地域は、やっぱり先輩方が立派だったなと思うのは、1つの業種に偏らない企業誘致というのが今日まで行われてきています。具体的に言うならば、自動車関連になるのですが、BS、そして食品関連の麒麟ビール、これはある業種が今回の自動車のように落ち込んでも、違う業種がきちっとそれほどの影響を受けないと。ということは、その自治体について言いますと、不況になっても比較的受ける影響というのは軽微で済むという、それはやはり私どもの先輩方がいい形での企業誘致というものをやっていたなと、これは本当に先輩方に感謝しなければいけないなという思い、そういったことは非常に私はこの地域にとっての利点と申しますか、素晴らしい点だろうと。

一方、この地域の欠点という言い方が当てはまるかどうかは別として、やはりこれは全国的な傾向ですけれども、少子高齢化が非常に進んでいる。特に、地方と言われる朝倉市を含んだ地方、朝倉市も地方という地域になろうと思いますが、その傾向が非常に顕著であるということ。そして、それに伴い、もともとこの地域での、皆さん言われることですが、私もその言葉を使わせていただきますが、基幹産業と言われておった農業、あるいは林業といったものがやはりそういった波に、少子化、あるいは特に高齢化の波にやられて、非常に厳しい状況にある。

そして、もう一つ言えること、これは欠点にもなり得るし、利点にもなり得るのだろうと思いますが、県下で4番目に面積が広いと、市の。約246.7平方キロぐらいですか、これは行政効率という点から見ますと、非常に効率が、やっぱり面積の狭いところにたくさん人が住んでいただいたほうが、行政効率という点から見ればやっぱり効率がいいわけですね。やっぱり広い面積の中に6万弱という人口が多いのか少ないかは別として、そうし

ますと、やっぱり行政効率という面ではどうしても効率という点で見れば悪い。しかし、広いということは、それだけ活用の仕方によってはこれは利点にもなるというふうに思っております。

ですから、そういう朝倉市という地域の状況かなというふうに理解をしております。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） ありがとうございます。

では、副市長に同じ質問をさせていただきます。

県に県の職員としていらっしゃって、朝倉市を見たとき、それから福岡市に在住であって朝倉市を見たときの同じように朝倉市の特徴、利点、欠点、それから思うことがありましたら、ぜひ副市長の人となりを聞きたいというふうに思いますので、よろしく願います。

○議長（柴田裕隆君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 朝倉市の特徴といいますか、につきましては、これは私の感じたところで、先月、5月の26日にこちらのほうに参りまして、約半月ほどたっていますけれども、まず人が非常に温かいというふうな印象を受けています。皆さん、私に頑張れよ、頑張れよと声をかけてくださいますし、またひとり暮らしなのかと、人となりということですから、ちょっと個人的なところを言ってしまうと、一人で今は暮らしておりますが、自炊はできているのかとか、いろいろ生活面にまで踏み込んでいろいろと、あそこの食べ物がおいしいぞとか、そういうことまで言っていただきます。

仕事でいろんな地域に行った際にも、若いというのはあれですけども、大変でしょうと、期待していますと、頑張ってくださいという声を皆さんかけてくださいます。非常に温かい土地だなというふうに感じています。

特徴といいますと、やはり家族といいますか、福岡のほうにおりますので、公務との兼ね合いをつけて、週末、時間がとれば福岡のほうにも行っていますけれども、鉄道につきましても始発駅、甘木鉄道もございますし、西鉄もございます。高速道路につきましても、私、歩くのが好きですので歩いて行きますけれども、歩いて行ける距離です。ですから、どういった手段で行くにしても、非常に行きやすいと。先ほど通勤圏だというような話もありますけど、1時間で行けますので、非常に便利だというふうに感じています。

あと、地域をできるだけということで、私は自転車に乗るのが好きなものですから、けがをしないように気をつけながら、杷木のほうまで先日も行ってまいりましたけれども、原鶴温泉から、あとは三連水車を見て帰ってきました。なかなか全部をまだ回り切っているわけではありませんけれども、いろんな観光資源といいますか、そういったものがあると。

以前、県におるときに、ボランティアでホームステイの受け入れをやっている、海外から来た人を原鶴温泉に連れて行って、柿狩りに連れていきました。福岡の都会という

のもあれですけども、ああいう天神なり買い物をするところがあって、整備されているところ、また1時間足らずでここに来ると、今度はいろんな観光資源なり、自然が豊かであるというふうなことで、その留学生も非常に喜んでいと。私も、やはり自然というのは大きな財産だなというふうに思いますし、素晴らしい地域だというふうに感じています。

そういったところでよろしいでしょうか。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） なかなか来たばかりで、欠点とかいうのは言いづらいのかなというふうに思いますが、後々またそういった話をさせていただければというふうに思います。

もうお一方に同じ質問をしたいというふうに思います。4月に新しく部長になられて、この議会、一般質問にずっと参加されて、一言もまだ発言をされていないので、ぜひお伺いをしたいと思います。人それぞれ思いというのは違って、僕はいいことだろうというふうに思いますので、ぜひ朝倉市の住民、それから朝倉市の職員、部長としてどういうふうに朝倉市を考えていらっしゃるのか、高瀬市民環境部長にお願いします。

○議長（柴田裕隆君） 市民環境部長。

○市民環境部長（高瀬健次君） 6月議会では、一般質問については市民環境部はないということで、非常に安心をしておりましたけれども、突然の指名でございますので、回答になるかどうかは別といたしまして、市としての現状と課題ということでの質問であろうというふうに思います。

私も事務屋でございますので、事務屋の観点から言いますと、現状と課題という部分についてはいろんな意味での切り口がたくさんあるのではないかとこのように思います。例えば、環境基本計画をつくる場合には現状と課題を分析をして方針をつくるでありますとか、いろんな制度設計をする場合につきましても現状と課題を分析をしてつくるのか、そういったことでいろいろ仕事をしていくし、また市役所の仕事の数多くの事務事業がたくさんございますので、そのたくさんの事務事業についても現状、課題、問題点がたくさんあるというふうに思っております。

そういった分野の中で、こういったことを発言すればいいかというふうに思いますし、また桑野議員が思っていることと全然違う観点からの答弁になるかもしれませんが、私自身としましては、今、私が思います職員としての大きな課題というのは、何といたってもやっぱり永遠に追求する課題であろうと思いますけれども、市民との信頼関係を築くということに尽きるのではないかとこのように思います。

と申しますのは、3月までは人事の仕事に携わってまいりましたし、また4月からは市民環境部の仕事をさせてもらっております。人事といえば、どちらかといえば職員対応中心の職場でありますし、市民環境部では住民の皆さんと直接接する職場でございます。人事のときは、住民の皆さんから職員に対する問題指摘やクレームなどをたくさん受けることがございましたし、数年前は御案内のように職員の収賄事件、現金着服の問題、下水道

の未賦課問題と、立て続けに発覚いたしましたので、数多くのおしかりの電話や抗議を受けまして、職員の全体的な信用も失墜しているなというふうにも実感したこともございました。

また、市民環境部に参りますと、市民の方と直接相對して仕事をするわけでございますし、また来庁する市民の方は窓口で対応している職員は市役所そのものだというふうな認識で来庁されるわけでありますから、職員が担当課でその業務に関して窓口対応をしておいても、市民の皆さんは窓口業務に関係のないような行政運営上のクレームでありますとか、過去に市が行政処分をした問題などにつきます不平不満だとか、また職員に対する問題指摘を受けることが多数あるように聞いております。

そういったふうな現状を踏まえてみますと、大変難しい課題であり、永遠に追求していかなければならない課題だというふうに思いますけれども、市民の皆さんからいろいろあっても市役所の職員はよく頑張りよるばいというような職場風土なり、信頼関係をつくっていくことが大事な課題ではないかというふうに思っております。

上を向いてつばを吐くようなことを言っておるわけでございますけれども、そういうことは重々わかっておりますけれども、私の考え方として申し上げさせていただきました。以上でございます。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） 済みません、3人の方に同じ質問をさせていただきました。私は、人それぞれ、朝倉市の思いであるとか、現状と課題とかいうのは人それぞれあって当たり前のことだろうというふうに思いますし、この課題とか現状を見ないと、僕は次の政策なりやること、やらなくてはいけないことというのが私は見えないのではないかとこのように思っておりますので、あえてフリートークで答弁をさせていただきました。高瀬部長のは大変職員としては言いにくいことを言っていたいて、私は朝倉市の職員として変わりつつあるのかなというふうにも実感をしたところであります。

では、それを踏まえて、市長が出されました7つのビジョン、42項目のマニフェストということで、お伺いを幾つか上げておりますけれども、市長が初登庁のときに市の職員に訓示をされた中で、既成概念にとらわれることなく、風土風潮にとらわれることなく、いいものは率先してやっというのを言われました。それから、先日のマニフェストのことは、ローカルマニフェストというのは、自主財源が豊富でない朝倉市としてはなかなか実現には難しいところもあるし、それから国の政策があるということで、すべてどうこうというのではないけれども、この分に関しては積極的に取り組んでいくというお話をいただきました。

それから、6月議会の提案理由の中に、ローカルマニフェストを直ちに実行するもの、それから時間を要するもの、準備して進めるものというふうに、3つの分け方をされておりました。

それを踏まえて、まず1番のワンストップサービス、それからこんにちは市長室について、市長のイメージ、どういった形のイメージでやりたいのか、それから先ほど言いました、直ちに、時間を要して、準備してという形のどの分野になるのかをお伺いをしたいと思います。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） ワンストップサービス、仮称ですけども、こんにちは市長室、これも何人かの議員の皆さんから御質問いただきました。

ワンストップサービスということななぜ私が掲げたかと、これまでも窓口改革ということで、朝倉市も随分窓口については随分前に比べたらはよくなっています。ワンストップサービスの原点といいますか、もとはいわゆる行政、朝倉市役所はやっぱりサービス業なのです、市民に対するということを念頭にございます。ですから、やはり市民が一番多く市役所に来られる機会というのは、いろんな手続とか、例えば住民票ですとか、いろんなものの発行で来ます。窓口が一番多いわけですね。それをやはり幾つかの窓口でやっているものを1つの窓口に行けば、やっぱり市民は便利です。そういう発想で、ワンストップサービスはぜひやらなければならない。

そして、既にこのことに取り組んでいる自治体はほかにもございます。ただ、そこで1つあるのは、もちろんほかの実際にやっている自治体のことは非常に研究しなければいけないし、勉強もしなければならぬだろうと思う。しかし、そこ朝倉市が必ずしも同じものにしなければならないかということであると、それは必ずしもそうではない。やはり朝倉市、市役所のいわゆる広さですとか、いろんな条件が違います。その中で、朝倉市としてやれるワンストップサービスというのは何なのかということ、今、既に関係の課のほうにお願いをして、研究をしていただいております。

ですから、これは準備しながら、やっぱりきちっと準備してやっていくべきものというふうに思っております。

もう一つのこんにちは市長室、仮称ということをおっしゃっていただきましたけれども、名前はどのような形になるかわかりませんが、住民の皆様方の意見を聞くという施策といえますか、そういったものは既に先日も申し上げましたけれども行われております。朝倉を語ろう市長室とか、昨日でしたか、申し上げましたように、幾つかやられております。

しかし、これはやはり余りにも大上段に振りかぶって、ここでやりますから、皆さん、どの程度の方が集まって、どういう方が集まってもらえるのかは別として、それもおまけに年に2回ぐらいですね。そのほかに市長へのハガキですとか、まちづくりメールですとか、そういったものも行われているようです。そういったものではなくて、もっとふだんからやはり気軽にと言ったらちょっと語弊があるのかもしれませんが、市民の皆様方がどんなことを考えて、どんなことを望まれているのかということ、私としては、市長としてはやっぱり知っておかなくてはいけないという思いがあって、こういう形をやる

うと。

それから、もう一つ申し上げましたのは、先日申し上げました、いわゆる合併して5年目を迎える朝倉市で、旧甘木、旧朝倉、旧杷木、この地域が必ずしもまだ、これはすぐには難しいのだらうと思いますけど、やっぱり地域としての朝倉市という1つの自治体としての一体感というものを早く造成しなくてはいけないと。そのために、やっぱり支所と、朝倉支所なり杷木支所に定期的に向かわせていただく、そういった意味合いもございます。

ですから、これについては、当初は私が思ったような形ではならないかもしれませんが、少しでも早く始めたい。これは、こういうことの言い方は悪い、必ずしもどうかかなと思うのです。拙速でいいから、とにかく始めて見ようではないかと。そして、走りながら考えようではないかということがあってもいいのではなかろうかなと、そういうイメージでやらせていただきたいというふうに思います。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） イメージ的には大体わかりました。先ほど言われた、私も考え方としてはベストはないというふうに思っております。ベターから始めてベストに近づけるというようなスパイラルアップをしていくということが一番大切なのかなというふうに思っております。

まず、4項目をさっさと聞いて、あと総括的にもう一回質問をしたいというふうに思います。

それから、よりよい行政サービスのための事業評価、先日市政報告をやったときに市民の方から言われたのは、朝倉市は事業仕分けはせんとかいと、できんとかいとというふうに言われました。そのとき、私がお話したのは、実は朝倉市の中では事業仕分けをできるような、要は、おのおの事業の、要は、評価をしていないので、結果的にこれが効果があったのかなかったのかどうかというのが、実はわからないんですというお話をしました。私が7年前議員にさせていただいたときから、実はこの問題は絶対行政評価システムをつくらないと、場当たりの予算になって、総合的な予算、それから、効果的な予算というのは使えないということを言ってまいりました。市長のマニフェストにありましたので、ぜひこの辺は市長の思いを聞きたいと思います。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私は、事業評価をぜひやりたいという思いでなったのは、今、桑野議員のほうからも話ございましたけども、国では民主党政権になりまして華々しく事業仕分けという形で行われております。あれはどちらかという、予算ベースでの事業仕分けです。

しかし、その前にそれをする前に、じゃ今までやってきた事業がどうだったのかという評価がないと、そこには行き着かないだらうと、ですから、変な話になってくるわけですね。世界2番目じゃいかんのですかと、そういう話になってくるわけです。それはなぜ



かという、それまでの積み重ね、蓄積がないから、ああいう話になってくるわけです。

ですから、私は決算ベースで、今までやってきた仕事が本当に、その仕事が朝倉市のためにもどの程度の効果があったのか、必要性があったのかというものを、まずそこできちっとそれぞれの事業において評価をしていく。その上に立って、次の予算にそれを反映していくと、もちろん事業評価の中には市民の方も入っていただこうし、いろんな形でやっていくという考えでおります。よろしいでしょうか。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） 私と思いは多分一緒だろうかというふうに思っております。その次に、効果的、機能的な組織の改編とありました。私は、この改編が興味があって聞きたいんですが、きのうの一般質問であったと思いますけれども、人材育成基本方針であるとか、それから、職員提案制度の実施であるとか、そういったのをなされながら、要は、組織の中の人づくりというのをやられて、組織づくりというふうにされてるのかなというふうなイメージは持ってるんですが、市長が組織をどういうふうに変革という形をとられているのか、書かれているのかお伺いをしたいと思います。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今申し上げましたけれども、先日も申し上げたんですが、いわゆる今から将来的には、残念ながら国会のほうで閉会になりまして、私どもが一番期待しております地域主権に関するあれが継続になる。非常に期待しておったんですけども、政府は一丁目一番地とか言われておりましたけれども、それを十分その法案を通さぬままになったのは非常に残念ですけども、恐らくそういう方向で地方分権ですとか、地域主権というのは確実にこれは早かれ遅かれ、どういうスピードになっていくかわかりませんが、早かれ遅かれそういう方向になっていくと思います。そうなったときに、じゃ今のままの市役所の体制でそういった時代になったときに耐え得るのか、そのことを考える。

そして、これも先日申し上げましたけれども、今からそういう時代に備えるためには朝倉市が、先ほど桑野議員も言われましたけれども、朝倉市が今どういう状況にあるのかと、そして、じゃこれから先は朝倉市という市をどういう方向に持っていけばいいのか、地域づくりをすればいいのかといった考えをした場合に横並びの行政、失礼ですけども、どちらかという、今までの行政というのは横並びです。よそがしよるから、うちもしよると、それでもよかったわけです、今までであれば。

しかし、今から先というのは、先ほど言いましたように地域主権ですから、地方分権が進んでまいりますと、それだけやっておけばいいという話ではなくなる。そのときに組織というものが機能的にきちっと、もちろん私は市民の皆さんと一緒にやっていくということを言いました。その中の牽引車になるのは、市役所です。職員です。そういったときに組織というものを、そういう時代にきちっと耐え得るような組織、形態に改編していかないといかんという思いで、こういう書き方をさせていただいておりますし、これにつきま

してはすぐというわけにはいかんでしょうけれども、実際の現状を見ながら、もちろん市役所の職員たちの資質と特性というものも十分私なりに判断しながら、組織というものの改編、機構改革も含めてですけれども、やらせていただきたいというふうに思っております。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） 思いといいますか、そういうのはお伺いさせていただきましたけれども、最初に、冒頭に言いましたように森田市政とあえて書いております。ぜひ僕は色の濃いやつを答弁で言ってほしかったなというふうに思っております。例えば、強いとか、攻めるとか、守るとか、そういった組織にしたいとか、そういった言葉が私は聞けたらいなというふうなことで実は質問したことでした。

それから、4番目に、人口減少の歯どめ、それから、交流人口の増加という形で書いてあります。

少子高齢化というのも大変問題かと思えますけれども、私は人口減少の方がもっと問題だろうというふうに思っております。先ほど最初に聞きました利点とか、欠点の中の3つのインターチェンジを使って企業誘致であるとか、動向という形の中の人口減少の歯どめということもあるかというふうに思いますが、まず人口減少の歯どめとして具体的な策のお考えがあるのかどうかというのをお伺いをしたいと思います。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私もいろんな問題が課題がある中で、いわゆる人口減少というのは朝倉市のみならず、これは日本として一番大きな課題であろうかというふうに思っております。

そういった中で、特に何度も言うようですが、朝倉市を含めた地方と言われる地域は非常にその傾向が顕著であると、その歯どめと申しますか、それに歯どめをかけるというのは、これ非常に難しい、大変なことです。ただ単に、一つには、ここで生まれた人たち、育った人たちが都市に出ていくということも、この地域の人口減少の一因です。もう一つあるのは、日本全体の人口減少の要因は、やはり子どもを1人の女性が子どもを産む数が、特殊出生率、最近ちょっと上がりましたが、非常に少なくなってきた。これは日本全体の問題です。

しかし、私どもとしては、まず朝倉市を考えた場合、両方について手だてをしていかなきゃならん。出ていく人たち、要するに、若い人たちが、この地に育った人たちが都市に出ていく。これはなぜ出ていくかという、一つは、都会に対するあこがれもありましょう。それと、もう一つ、いわゆる仕事、生活のために出ていく、仕事を求めて出ていく人もありましょう。これはあこがれとか、そういったりして出て行く人たちは、若いころはみんなそうだと思うんですね。私もそうでした。恐らく桑野議員もそうだったかもしれないし、若いころは田舎で育つと、都会に出ていきたいという思いはみんなほとんどの方が

あるんだろうと思います。それは仕方ない話なんです。

それで、もし出ていかれても、私もそうです。全部とは言いませんけど、その中の多くの方がやはり生まれ育ったふるさとに帰りたいという思いになられる方がいらっしゃる。全部とは言いません。そういった人たちが帰ってこれる、帰ってきて生活ができるような地域づくり、もちろんこの地域でずっと一生おる人たちもいいんですが、そのためには何をしなきゃならんかという、言うように働く場所、それから、生活空間をいかに都会に近づけて快適にするか、それと子どもをいかに育てやすい環境を整えるか、そういった環境もろもろをしていかなきゃならんだろうと、それはマニフェストに、これがすべてじゃありませんけれども、今やれることについては、そのことについてはマニフェストに書かせていただいております。

もう一つ、今子ども1人の女性が、特殊出生率の話、子どもが非常に少なくなったと、このことを考えてみますと、これはお互いの夫婦の人生観の問題もあるでしょう。例えば、私たちは子どもをつくらんで、一生夫婦2人でいいんだという、そういった、これは人間の人としての考え方ですから、これをとやかくは言えません。

ただ、結婚前の女性とか聞きますと、子どもは何人欲しいですかというアンケートを、結婚前の方に聞きますと、3人というのが一番多いそうです。3人は欲しいと、しかし、結婚して子どもをつくると、3人つくる人はなかなかいません。1人か2人が多いです。

それはなぜか、子どもを育てるには、今は特にお金がかかります。今はほとんどの方が、ほとんどとは言わないけど、何割になるのか、昔は中学校で卒業して就職をしたり、高校までで卒業したり、この割合が比較的多かったです。僕らのときは、年代は。

しかし、今はほとんどの方は、100%近い方は高校まで行かれます。高校は公立に行けば、そうかからん。問題はそれから先の、いわゆる高校を卒業して、4年生大学じゃなくても短大、あるいは専門学校、そういったところにほとんどの方が行かれます。そこにお金がかかる。そうしますと、将来設計しますとなかなか、私も実際子ども3人おりますけど、2人一緒に大学、それも頭がいいなら公立大学へ行けばいいんですけど、私立大学へやりますと、金がかかります。それは大変だろうと思います。

そういったことを考えた場合に、やっぱりどうしても本当は3人欲しいんだけど、1人にしておこうかとか2人にしておこうかという話になってくるんだろうと思うんです。このことについては朝倉市だけで、何らかの施策で、このことを解決するという事は非常に難しいです、はっきり言って。

しかし、朝倉市でできること、それは今回出しております就学前の子どもの医療費をただにしようではないかと、もちろん財政がありますから、その範囲の中でできることという、そういう形になってくると。

しかし、それでもやれることをやっていかないと、朝倉市が今まで以上にもっと人口減少になるということが考えられますので、今市としてやれること、少子化、あるいは人口

減少についてやれることについてはやっておかなきゃならんというのが私の考えで、こういう形でmanifestoに出させていただきました。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） manifestoの質問の中で、市長がmanifestoをつくるに当たっての思いというのを、十分にこの4つの中で聞かせていただいたというふうに思っております。人口減少の中では、先ほどありましたように、私はUターン、Iターン、Jターン、こういうのを活発に試行錯誤しながらというのも一つの手だろうと思うし、あそこに住みたいというふうに思われるような若者が多くなるような施策というのも、いろんな手だろうというふうに思っております。

あと交流人口のことに関しては昨日質問がありましたので、私も答弁もありましたけれども、この辺の地域と連携しながら、例えば、太宰府からいかにこっちに呼ぶか、単純なことですが、筑前町の平和祈念館から秋月にどういうふうに導いていくか、その方が昼食をとるとか、こっちでとるとか、宿泊するというような形をどういうふうにもっていくかというのは大変難しいことだろうし、またやらなくちゃいけないことだろうというふうに思っております。

きのうからの質問の中で、manifestoの中でよく言われたのが、じゃmanifestoができたかどうかというのをどういった評価の物差しを持ってるんですかとかいう話もありました。それから、スピードの話もありました。よく住民の方から聞くのが、行政に行ったら、要は、できん話ばかりされると、できない理由ばかり、これは予算がないからですねとか、できない話ばかりされると、要は、こげんしたらできますよという話は一切されんというのを、実は地元の区会長なりからよく話を聞きます。

市役所行ったら、できん話ばかり、順番ばかりと言われると、いつも言われます。要は、できる話をするということが、私は住民サービスの一つの方法じゃないかなというふうに思います。これは、例えば、市役所ができんでも、地域のこういったコミュニティの中で、こういった予算の中でできんですかという話をすれば、私は、先ほど一番最初に言いましたように、お金がある時代は、僕は満足いただける行政サービスができたというふうに思いますけれども、現状これだけ厳しくなると、やっぱり市民の方が納得いただけるような行政サービスにシなくちゃいけないというふうに思っております。ぜひその辺の人となりといいますか、人材の育成であるとか、職員の育成、それから、スピードに関しては、一つは、私は納期が明確にならないことがスピード感をぶらせてるんじゃないかというふうに思います。納期というのは3年後の納期でもいいですし、半年の納期でもいいというふうに思ってるんですよ。要は、いつになったらできますよと言われんから、頑張りますとか、努力しますと言われるから、市役所はスピードが遅いと僕は言われるんだらうというふうに思うんです。

それから、一番最初にありますワンストップサービスもそうですが、こんにちは市長室

の中でありましたように、市民の方の声を聞くということは納得していただくんじゃないか。要は、聞くことによってしゃべって納得していただけるんじゃないかというふうに思っています。

それから、もう一つは、行政の中で透明性がないといけないんじゃないかと。透明、聞くこと、納期、達成の物差しというのがスピード感につながり、私は市民の方に納得いただけるようなことだろうというふうに思っております。市長のマニフェストの続きの中のチラシの中に、実は42項目のマニフェスト、その下に実行力というのがありました。私は、マニフェストを実行するのがこれからの仕事だろうというふうに思っております。この実行力を上げるために市長の意気込みをまずお伺いをしたいと思えます。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（森田俊介君） 当然私は4月の選挙でマニフェストを市民の皆様方にお示しし、このことをやりますということで当選をさせていただいております。ですから、これは4年間という一つの区切りでありますけども、その中で必ず達成するという思いで、気持ちで取り組みを私の与えられた任期、しっかり取り組みをさせていただきたいということをお願いいたします。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） 実行力という市長の思いを聞かせていただきました。

では、副市長に同じように、二人三脚でいかになくちゃいけないというふうに私は思っております。副市長の役割というのは大変重要なポジションだろうと思えますし、物事をするに関しては、僕は市長が号令をかけたからすべてできるとは思ってません。やっぱり一番起因になるのは、僕は職員の方の努力だろうというふうに思っています。職員方の努力をいかに、じゃ事務方の長として副市長が二人三脚で市長のマニフェストを実行力を上げるということに対する、要は、副市長の思いをお伺いをしたいと思えます。

○議長（柴田裕隆君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 私の立場としましては、一つは、市長を補佐してという部分がございますが、一つ一つの政策を現実のものにしていくには、例えば、財政的な観点、あるいは政策効果、そういったところを見ながらやっていかないと、十分にはできないというふうに考えますので、例えば、今の250億円の予算の中で、実際に市として政策に直接使える経費がどれだけかというものをきちんと見定めて、その中で直接行政でやって経費を投入するものと、あるいは地域の方々にやっていただいて、そこにいろんな行政としての知恵を投入していったって実現していけば形になっていくもの等さまざまあると思えます。

ですから、どういった形で実現するのかというのを職員と一緒に、私が先頭に立つといえますか、考えていかないといけないというふうに考えてます。実際に昨日、一昨日ですか、議論がありました固定資産税の税率の問題につきましても、マニフェストの中で市長掲げてますので、我々としてもぜひ実行できるように取り組むということは当然のことだ

と考えてます。その1億3,500万円なりの減収になるという部分は、いわゆる標準税率である1.4%を超えた部分につきましては直接財源として、いわゆる自由に使えるお金として市の方に今入ってきてるお金ですから、そこを一方で、財源を抑制した上ででも、削減した上ででも、また別に財源を生み出して、事務事業の見直しであったり、さまざまな効率化であったり、そういったところで、また考えていくと、全体としてどういうふうに、どういう主体が、どういう手法で、どういう財源を使ってやっていくかというのを一つ一つ考えていくということが必要だというふうに思ってます。

なかなか職員の中に自由に何と申しますか、発言と申しますか、政策を企画して提言できにくいような雰囲気があるんじゃないかという声も聞かれますので、そこは業務ですから、業務中というのもありますけれども、時間を問わず、いろんな形で職員のみならず議論をして、よりよい政策というのを実現できるように、私にできる精いっぱい先頭に立ってやっていこうというふうに考えております。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員。

○8番（桑野博明君） ありがとうございます。それから、いかにマニフェストを実行していくかという実行力、市長と副市長のお話を聞かせていただきました。例えば、市長が日本一のふるさとをつくりますよと言ったときに、じゃ副市長はどういった号令をかけなくちゃいけないのか、総務部長がどういった号令をかけにやいかん、市民環境部長はどういった号令、課長はどういった号令をかけなくちゃいけないというのが、今まで私がいろんな質問をさせていただいたときに市長が火の用心と言ったら全職員、火の用心と言ってるんですね。それじゃ実行力は、僕は上がらないと思ってる。自分の役割は何なのか、火の用心の役割は、自分は何なのかというのを真剣に自分の仕事として考えるという組織グループじゃないと、私は達成力というのは出てこないというふうに思います。

民間の企業でありますと、利益を確保しなさいと社長が言ったときに、じゃ総務部はどういうことをせにやいかんのか、営業部はどうせにやいかん、管理部はどうせにやいかんかと、要は、そういったことだろうというふうに思うんですよ。それが何か、親方日の丸と言われるような形の中で、みんなが同じ号令というのが、私は市民の方が行政に対する不満というか、あれは僕はその辺にあるんじゃないかというふうに思ってるので、先ほど言われた副市長の若い力と申しますか、そういった中で、ぜひ職員なり、それから、地域住民を引っ張っていただけるようなことをやっていただければというふうに思います。

それから、一般質問の中でよく出てきたのが、いや、実はこれは、こういったことは県の事業でやりよったんですよねとか、これは国の事業であるんじゃないですかねというのがよくあります。これは職員の方も知らないことが、僕はあるかと思うんですよ。僕はある職員にお話したときには、毎朝1時間インターネットを見るというのも仕事のひとつとして日課にするのはいいんじゃないですかと言った。自分がこういったことをやろうとしとるのに国の補助金がないやろかとか、県のこういった施策はないやろかというのを僕は一

生懸命探すのも、僕は仕事だろうというふうに思っております。

ぜひ副市長の先ほど言われたおのおのの職員の仕事という部分に関して起案して、書類を回してどうこうというのが仕事じゃなくて、どうしたら自分の仕事が楽になるやろうかとかいうのを真剣に考えていただけるような、それから、これは平成15年の9月議会で僕が一般質問した中で、職員のスキルアップというのがあるんですが、これはOJTとかOFFJTとかいう話も書いとるんですが、要は、今望まれてるのは政策形成能力というのが僕は職員、一番能力を望まれてることだろうというふうに思いますので、ぜひ大いに僕は、市長、副市長に期待をしているところがありますので、ぜひ森田色を存分に出していただいて、朝倉市がよりよい、それから、日本一のふるさとなるような市政に御尽力をいただければというふうに思って、激励を込めて一般質問をさせていただきました。

これで私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（柴田裕隆君） 8番桑野博明議員の質問は終わりました。

以上で通告による一般質問は終わりました。これにて一般質問を終了いたします。

10分間休憩いたします。

午前10時56分休憩